

重点取組分野	令和 元 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①ユニバーサルデザインの授業を中心とした「共通授業コンセプト」の実践を進める。②主体的・対話的で深い学びの研究・実践を進める。	①「共通授業コンセプト」に沿った授業評価を実施し、生徒の視点を大切に実践を行うことができた。②小中合同研修会等で少人数での学び合いの重要性を共有し、ペアやグループの活動を中心とした主体的・対話的で深い学びの場を増やすことができた。	A
豊かな心	①「共通授業コンセプト」の実践を通して、だれもが安心して参加でき、自尊感情を高めることのできる授業を目指す。②学校行事や小中合同の行事等を工夫し、縦割り活動を取り入れ、思いやりや社会性を育成する。③学校行事や他の教科等との関連性を高めた道徳科の授業を行う。	①ペアやグループの活動が増え、安心して参加できる授業づくりが進んだが、自尊感情の高まりがまだ十分ではない。②縦割り活動の機会は増えたので、より社会性育成に寄与できるようにしたい。③学校行事や他の教科との関連を意識して、道徳科の授業を行った。	B
健やかな体	①一人ひとりの健康目標を設定し、月ごとに振り返りを行うことにより行動意欲の向上を図る。②全校生徒参加の学校保健委員会、今日的な健康課題を扱うことで健康に対する意識を高める。③体力テストを年2回実施することで、体力についての意識を高め「体力づくり」に取り組む。	①月ごとに振り返りを行ったが、健康目標への意識づけが十分ではなかった。②今日的な健康課題をテーマにし、健康に対する意識が向上した。③体力テストを年2回実施し、授業で継続的に「体力づくり」に取り組むことで、体力についての意識が高まりつつある。	B
特別支援教育	①生徒一人ひとりをよく理解し、よさ(強み)を生かし、困難さ(弱み)に応じた指導・支援をしていく。②「共通授業コンセプト」の定着など、ユニバーサルデザインの指導方法の研究・実践を進める。	①特別支援教室での支援体制が確立され、個々に応じた指導が充実した。今後は、さらに全生徒の一人ひとりのよさを生かし、困難さに寄り添った指導・支援をしていきたい。②「共通授業コンセプト」が教職員に定着し、授業のユニバーサルデザイン化が進んだ。	A
特別活動	①様々な話し合い活動や集団活動を通して、他者にも大切にすることを養い、集団への所属感や連帯感を深める。②生徒の出番や役割を多く創出し、その活動が承認されることで自己有用感を感じ、自尊感情を高められる活動を意図的に計画する。	①様々な場面で話し合い活動や集団活動を設定し、生徒同士が関わり合う機会が増えたことで、集団への所属感や連帯感の深まりがみられた。②文化発表会の見直し等の意図的な計画を行い、生徒の出番や役割を多く創出することができた。	A
地域連携・学校運営協議会	①学校便り、学年便り等を通して、生徒の活動の様子を効果的に保護者・地域に知らせる。②小中合同の学校運営協議会等を通して、様々な立場の人の意見を聞き、より良い学校と地域社会を作るという目標を保護者・地域と共有し、小学校と共に保護者・地域と協働した教育活動を行う。	①学校便りで学校の重点取組について発信し、学年便りでは生徒の活動の様子を中心に発信した。今後も学校便りと学年便りを区別しながら、効果的な発信を行いたい。②様々な立場の人の意見を聞くことのできる体制づくりが進み、活発な意見交換が行われた。	A
いじめへの対応	①「児童生徒指導のスタンダード」の理念を徹底し、自尊感情や社会性の育成に努めるとともに生徒一人ひとりに居場所と役割をつくる指導を行う。②行事や特別活動等を工夫し、親和的な学級集団、学年集団、生徒集団づくりを進める。	①授業や行事を中心に生徒一人ひとりが活躍できる場面を増やし、自尊感情や自己有用感を高めることができた。②行事や特別活動において、学級での活動や縦割り活動を積極的に取り入れ、生徒が様々な集団での活動を親和的に行う様子が見られた。	A
人材育成・組織運営(働き方改革)	①メンターチーム研修を通して、経験の浅い教職員の学習指導や生徒指導等の実践力を高める。②主幹・主任会で、学校の様々な課題について全体的な視野で解決策を考えることで、ミドルリーダーとしての力を向上させる。③月間行事予定や学校行事等の立案をする際、教職員の勤務体制が過重とならないように計画する。	①行事に向けての指導方法を中心に年3回の研修を実施し、経験の浅い教職員の指導実践につなげた。②学校の諸課題を共有し、解決策を主体的に検討する機会を増やしたことで、ミドルリーダーの学校経営参画が進んだ。③事務処理日の設定や行事の時間短縮等により、時間外勤務の縮減を図った。	A
ブロック内評価後の気づき	・児童生徒アンケートの結果によると、相談のしやすさ、児童生徒に寄り添った指導についての評価が比較的低かった。この結果を重く受け止め、今後に生かしていきたい。 ・自己有用感やコミュニケーション力を育てる教育活動を充実させた効果が現れてきている。 ・保護者、地域への情報発信を工夫し、学校への理解が深まったことがアンケート結果で見取れる。 ・地域の活動を土台にして生まれた小中合同地域防災訓練を発展させ、来年度から「地域・防災科」として、小6～中3までの一貫カリキュラムを編成する。より内容を充実させていくことが必要である。		
学校関係者評価	・小中共通の「共通授業コンセプト」に基づいて様々な授業改善の努力をしている。旭中と中沢小の教職員が一体となって、小中9年間で子どもを育てるという姿勢が見られ、大きな成果を上げている。 ・自己有用感を育てることや達成感を味あわせることに、小中ともに重点的に取り組んでおり、現代の子どもにとって重要な教育活動であると感じる。今後は、自分に対して否定的な意見も自らのステップアップにつなげるなど、たくましく生きていく力も伸ばせるとよい。 ・教員の働き方改革については、国の求めている目標と現実との乖離が大きく、努力が必要である。		
中期取組目標振り返り	文化発表会を個人の発表から集団活動の発表の場に変更したことが、生徒、保護者ともに好評であり、行事や授業で、親和的な集団づくりや生徒の所属感・連帯感を深めることに重点を置いて取り組んできた成果が出ている。また、「共通授業コンセプト」に沿った授業が定着しつつあり、授業でグループでの学習を多く取り入れるなど、対話的で深い学びの実践が進んでいる。学校便り等で生徒の活動の様子や学校の取組がわかりやすく発信されていると感じている保護者が多いので、今後も情報発信を大切にしながら、地域、保護者とともに教育活動を充実させていきたい。		

重点取組分野	令和 2 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知			
豊かな心			
健やかな体			
特別支援教育			
特別活動			
地域連携・学校運営協議会			
いじめへの対応			
人材育成・組織運営(働き方改革)			
ブロック内評価後の気づき	・児童生徒アンケートの結果によると、相談のしやすさ、児童生徒に寄り添った指導についての評価が比較的低かった。この結果を重く受け止め、今後に生かしていきたい。 ・自己有用感やコミュニケーション力を育てる教育活動を充実させた効果が現れてきている。 ・保護者、地域への情報発信を工夫し、学校への理解が深まったことがアンケート結果で見取れる。 ・地域の活動を土台にして生まれた小中合同地域防災訓練を発展させ、来年度から「地域・防災科」として、小6～中3までの一貫カリキュラムを編成する。より内容を充実させていくことが必要である。		
学校関係者評価	・小中共通の「共通授業コンセプト」に基づいて様々な授業改善の努力をしている。旭中と中沢小の教職員が一体となって、小中9年間で子どもを育てるという姿勢が見られ、大きな成果を上げている。 ・自己有用感を育てることや達成感を味あわせることに、小中ともに重点的に取り組んでおり、現代の子どもにとって重要な教育活動であると感じる。今後は、自分に対して否定的な意見も自らのステップアップにつなげるなど、たくましく生きていく力も伸ばせるとよい。 ・教員の働き方改革については、国の求めている目標と現実との乖離が大きく、努力が必要である。		
中期取組目標振り返り	文化発表会を個人の発表から集団活動の発表の場に変更したことが、生徒、保護者ともに好評であり、行事や授業で、親和的な集団づくりや生徒の所属感・連帯感を深めることに重点を置いて取り組んできた成果が出ている。また、「共通授業コンセプト」に沿った授業が定着しつつあり、授業でグループでの学習を多く取り入れるなど、対話的で深い学びの実践が進んでいる。学校便り等で生徒の活動の様子や学校の取組がわかりやすく発信されていると感じている保護者が多いので、今後も情報発信を大切にしながら、地域、保護者とともに教育活動を充実させていきたい。		

重点取組分野	令和 3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知			
豊かな心			
健やかな体			
特別支援教育			
特別活動			
地域連携・学校運営協議会			
いじめへの対応			
人材育成・組織運営(働き方改革)			
ブロック内評価後の気づき	・児童生徒アンケートの結果によると、相談のしやすさ、児童生徒に寄り添った指導についての評価が比較的低かった。この結果を重く受け止め、今後に生かしていきたい。 ・自己有用感やコミュニケーション力を育てる教育活動を充実させた効果が現れてきている。 ・保護者、地域への情報発信を工夫し、学校への理解が深まったことがアンケート結果で見取れる。 ・地域の活動を土台にして生まれた小中合同地域防災訓練を発展させ、来年度から「地域・防災科」として、小6～中3までの一貫カリキュラムを編成する。より内容を充実させていくことが必要である。		
学校関係者評価	・小中共通の「共通授業コンセプト」に基づいて様々な授業改善の努力をしている。旭中と中沢小の教職員が一体となって、小中9年間で子どもを育てるという姿勢が見られ、大きな成果を上げている。 ・自己有用感を育てることや達成感を味あわせることに、小中ともに重点的に取り組んでおり、現代の子どもにとって重要な教育活動であると感じる。今後は、自分に対して否定的な意見も自らのステップアップにつなげるなど、たくましく生きていく力も伸ばせるとよい。 ・教員の働き方改革については、国の求めている目標と現実との乖離が大きく、努力が必要である。		
中期取組目標振り返り	文化発表会を個人の発表から集団活動の発表の場に変更したことが、生徒、保護者ともに好評であり、行事や授業で、親和的な集団づくりや生徒の所属感・連帯感を深めることに重点を置いて取り組んできた成果が出ている。また、「共通授業コンセプト」に沿った授業が定着しつつあり、授業でグループでの学習を多く取り入れるなど、対話的で深い学びの実践が進んでいる。学校便り等で生徒の活動の様子や学校の取組がわかりやすく発信されていると感じている保護者が多いので、今後も情報発信を大切にしながら、地域、保護者とともに教育活動を充実させていきたい。		